うしく里山の会 広報誌
さとやま
No. 86　2010年4月号

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
E-mail u_satoyama@infoseek.jp
HP http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/

牛久市の希少木 その種類と由來

巨木リサーチ2事業　渡辺 泰

島田町E氏屋敷入口の
サイカチの幹（幹周421cm）と刺

巨木リサーチ・フェーズ1では平成十八年度から三年間、市との協働事業で巨木と共に希少木を調べました。以下、希少木の結果を紹介します。

ここでの希少木とは高木性で、他の市町村では普通に見られても、牛久市内では珍しい樹種を指します。調査の結果、十九樹種に達しました。樹種名とその由来をみますと、次の通りです。

第一の牛久市在来種はイヌシデとタブノキの二種のみ。第二は牛久市には自生しないが、県内の他地域に分布する樹種で、アサダ・イイギリ・カシワ・ゴマギ・サイカチ・サカキ・サワグルミ・ムクロジの八種。第三は県内には自生しないが、国内の他地域に分布するタラヨウとハゼノキの二種。第四は海外からの導入種で、ダイオウマツ・チャンチン・テーダマツ・ニッケイ・ハンカチノキ・モミジバスズカケノキ・ユーカリノキの七種です。

以上のように大部分は移入・栽植されたものです。栽植場所は半分が個人の屋敷内で九本、次いで半公共的場所が六本、社寺境内が四本です。また栽植意図を推測しますと、各樹種固有の用途がありますが、ここでは観賞用庭木として植えられたものが大半を占め十一種に及びます。その他に神事・食用等があり、栽植意図不明が二種あります。

ここで注目されたのは島田町の旧家E氏の屋敷入口に立っているサイカチです。写真のような風格を備えており、幹周が四・二mある巨木で、かつては二本分岐していたものが、太い方が枯れてしまったそうです。ご主人によれば、先祖が魔除・厄除けとして植えたのではないかとのことです。写真右下のような刺をもつのが特徴で、これが魔除として植えられたゆえんと思われます。

これらの希少木が巨木と同様に市民共有の自然的・文化的遺産として次世代に引き継がれることを願っています。

プロジェクト活動報告

親子農業体験講座

横山　さえ子

じゃがいも・里芋の植付けに向けて

今年の講座は出足好調です。十五家族五十人で、大人二十二人・こども二十人・三才以下八人です。昨年は七家族でしたから倍増です。何が魅力だったのでしょうか。アンケートをとりたいところです。竹の子掘り、梅の実とりも募集案内に入れたのもよかったかもしれません。

四月に入ってすぐの三日（土）にじゃがいも植えをします。例年はAさんにお願いしていたじゃがいもの切り口につける灰は、ネーチャーセンターのストーブの灰をもらうことになりました。灰も役に立ってうれしいことでしょう。

今年は月二回の活動を予定しています。種植えや、収穫祭などのうれしいことと、草取りや土寄せなどじみな、でも生長には大切な作業があります。どちらも楽しんでもらえるよう、事前の準備が十分に必要になります。人数が多いので、事故がないように気をつけなければなりません。当日が晴れることと、事故がないことを願っています。

じゃがいもは一般的な男爵やメークインの他、インカのめざめやアンデスレッド、シャドークイーンなどを予定しています。スーパーでは買えない品種もあって、喜んでもらえることだろうと思っています。

昨年は葉っぱがまっ黒になって落ちてしまう「疫病」が発生しました。（防除がなかなか難しい、空気感染するカビ病だそうです）。観察の森の外の農家の畑や、家庭菜園に発病して、二～三週間したら親子体験や自然なんでも探検隊の畑で発生してしまいました。無農薬でおこなっているので、畑に薬はまきませんでした。今年も心配はありますが、じゃがいもに免疫力をつけるしかありません。EMぼかし肥と豚糞肥料で、できるだけがんばってもらうしかありません。いつもいつも、「がんばってね」と声をかけ、「うん、がんばろう」と思ってもらえるようにしたいですね。がんばる主体はもちろん、じゃがいもです。

昨年、埼玉の三富新田に研修に行き、高級な里芋の産地であることを知りました。ここの植付けは三月下旬とのこと。私たちは昨年、五月中旬に植付けて収穫が小ぶりな里芋が多かったので、今年は四月中旬に行うことにしました。一ヶ月早くすることで、どのような結果になるか楽しみです。

これからの予定は四月三日（土）じゃがいも植え。十七日（土）里芋植え。五月八日（芽かき、土寄せ（雨天の場合は一週間後になります）

親子で協力　「早く大きくなってね」　前田　09.4.4

雑木林応援隊
雨宮　廣之

「巨樹とエコライフ」

昨年八月に仕事の都合で関西に行き、半年弱で戻って来てからの活動再開のため、最近の活動内容には疎くなっています。そんな時の原稿依頼でしたので、活動報告とはなっていませんが御容赦下さい。

里山の会で、「巨樹」のプロジェクトが結成された時、自分も参加したいと思いましたが、どうしても時間が取れず断念しました。しかし、出張が多い仕事の中で、自分で各地の巨樹・巨木を見て回ることを思いつきました。巨樹を見るために出張をしているのでは有りませんので、念のため。

子供の頃、実家のそばに神社が有りました。そこには欅の巨木（駒ツナギの欅と言ってました）があり、そのでこぼこの大きな根元で良く遊んだのを覚えています。その原体験からか、巨大な木には引きつけられます。今までで一番好きなのは、新潟、三川にある「将軍杉」。幹廻り一九・三一ｍとあり、あの縄文杉の一六・一ｍを上回ります。但し、地上すぐ上に六本の太い幹があるためで、縄文杉の推定樹齢二千五百年を大きく下回り、推定千四百年となっています。

三川の将軍杉　雨宮

先日倒壊した「鎌倉鶴岡八幡宮の大銀杏」が推定樹齢千年、幹廻り七ｍと巨大な銀杏でした。本当に残念です。

どうしても行ってみたいのが、日本一の「蒲生の大楠」幹廻り二四・二二ｍ、推定樹齢千五百年、それと勿論、あの縄文杉です。里山の会の会員の方で、両方に行って見ている方がいるのをご存じでしたか？　羨ましいですね。

ちょっと主旨が違いますが、青森の「三内丸山遺跡」にある掘っ立て柱の遺構をご存じでしょうか？　発掘された穴の直径から、約一ｍの栗の木で作られていた事が分かっています。現在の柱は、ロシアから輸入されたものですが、日本で確認されている直径一ｍ以上の栗の木は、二三七本あります。この遺跡では栗の栽培をしていた事が、良く知られています。今から四千～四千五百年前に、狩猟だけで無く、果樹栽培（？）をしていたとは。それと、同じく発掘された遺構から、ゴミを分別廃棄していた事も分かっています。縄文時代にゴミの分別？　これって、本当にスゴイと思いませんか？　現地でこの話しを聞いて感動してしまいました。「エコライフ」ですよね。

山内丸山掘っ立て柱　雨宮

里山自然観察隊
平塚　芳雄

観察隊の新年度の活動について

去る三月十三日（土）、観察隊の今年度最終回の定例会を開催し今年度のまとめと新年度活動の具体化について協議し基本的事項を固めました。当日の出席者は八名。定例会の協議に入る前、観察隊が平成十九年四月から三年間続けてきた「小野川流域の雑木林及び水田における植物調査」に関する調査結果のまとめ（プロジェクト事業報告書）の内容及び作成進捗状況、今後の予定について渡辺泰さんからプリント資料やスライドを使って約一時間説明を受けました。

その内容は調査目的と調査方法、調査結果と考察、希少種および絶滅危惧種の画像と解説等から構成されており、付表として調査地に出現した植物の統計表・グラフ、調査地一覧、参考文献・資料も。更に、調査に参加した観察隊メンバーの感想文（調査事業に参加して）も掲載予定。今後「牛久市小野川流域の雑木林及び稲収穫跡水田の植物相調査（希少種・絶滅危惧種に着目して）」のタイトルで冊子化する計画です。

新年度の活動については植物観察会を主とし、四月から十二月に掛けて毎月実施、四月、九月、十一月は一般市民の参加も募る等の方向で検討してきましたが、当日の協議において活動の柱を明確にしなければとの指摘もあり又、観察隊の活動の成果を社会貢献という観点から意義あるものとするためにも観察隊の活動目的に合致する「モニタリングサイト１０００里地調査」への参加を検討することに。これは環境省生物多様性センターが平成十五年度から開始した事業で日本全国に約千箇所のサイト（調査

地）を設定し長期間モニタリング調査を実施することで生態系の異変を早期に把握し生物多様性の保全に資する対策に結び付けようとするもの（牛久自然観察の森はそのサイトの一つに）。調査項目は植物相、鳥類、中・大型哺乳類、水環境など九項目。観察隊としては「植物相」を調査項目として参加する考えです。

四月の活動は例年通り春の野草の花を代表するスミレの観察会を行います。観察コースは市内城中町からアヤメ園、三日月橋、新地町へとスミレが咲いている地点、地点を徒歩で巡る計画。道々、この時期、花を咲かせている他の草木についても観賞の対象に。

開催日時は四月十日（土）、城中町得月院前駐車場午前九時集合。春の一日、草木の花の観賞に出かけましょう。

水田雑草「コナギ」も観察対象　08.9.5

あやめ受託事業報告

増田　勝彦

園内のインフラ整備から

昨年十二月二十日に休みに入ったアヤメ園のメンバーが、冬眠から目覚め、二月八日から活動を開始した。雨男・雨女はいない筈だったが、今年は冷たい雨・雪に見舞われて、二月は五〇％の稼働率となってしまった。古参の私でも過去にこんな記憶はない。お陰様で寒い冬の作業が減った。尤も、雑草も寒さにあわせて顔を出してこないから、人間と自然界も談合したわけではないがいい関係にある。昨年末に菜の花の種を播いたぞ、とふっと思い出して、地面に顔をくっつけるようにして探すと、可愛い双葉が見つかった。一瞬心に灯りがともったようで・・・。小さな種が、一生懸命に冬越しをしていたようだ。

あやめ園の二月から三月の作業は、雑草が元気に伸びる春に向けてのインフラ整備が主となる。園の入口前にある青竹を数本伐採して、約一ｍに切り、スイレンの咲く池の水面側に巻くように土手を補強していく。

一方、Ａ～Ｅ区画の水の流れを調整するために、水が滞留する箇所を見つけては掘りおこし、勾配に注意しながら塩ビ管を埋めて、全区画の流れを調整する作業。サクラ並木に沿った土手側は勾配が高く、園内では湿り気のない畑地のようになっている。今年はこの特性を生かして、湿り気のない土を好むアヤメを植えることになった。こう言う時は男性メンバー総出で、土掘り・土ならし・土運びをする。因みに、当園はアヤメ園とは名ばかり、大半はハナショウブである。全国的に見ても、ノハナショウブの園芸種のハナショウブを植えていながら、アヤメ園と称しているところは多い。

牛久沼方向に目をやると、メンバーがスコップで汗を流しながら穴を掘っている。これは、四月以降急速に伸びる雑草の捨て場を作っているのだ。深さは一・二ｍ程度。五〇㎝程度掘ると砂利層に突き当たった。いつ頃堆積したものか、あるいは人工的に入れたものか等、ロマン溢れる推理に話の花が咲く。これらは、契約にない作業を工夫してやっているので、ＮＰＯが受託した活動のお手本だと自覚しながら自然に熱が入る。

休憩時間中、足元に目をやると、ツクシが三㎝程頭を出していた。園路を隔てた田んぼの土手には、ピンク色のヒメオドリコソウが小さな集団で花を咲かせている。メダカ・蛇は姿をまだ見せない。生物界、躍動前の静けさと言ったところであろうか。

アヤメ園の春は近い。

インフラ整備に汗を流すメンバー
増田　10.3.18

街路樹

チーム街路樹20　受託事業報告

内田　智子

「水戸の街路景観と梅まつり」研修見学会

その日は「ざーざー」という雨音で目が覚めました。「残念だけど、今日の研修見学会は中止かな？」そう思いながらメールをチェックすると、「午後から晴れの予報なので、一時間遅れで牛久駅に集合」との連絡。隊長の英断にいきおい私たちは車中の人となりました。水戸に近づくにつれ窓の外の雨はみぞれに変わり、偕楽園駅に着いたときには大きなボタン雪がふわりふわりと舞い、私たち八名を歓迎しているようでした。

最初に明治六年に創建された常盤神社を参拝しました。お宮を囲むように生えている木々はのびのびと天にも届くようでした。神聖な空気をいっぱい吸った後、東門から偕楽園に入りました。一歩踏み入れるとそこは、紅梅・白梅が白銀の中で咲く美しく不思議な空間を創っていました。偕楽園は水戸藩第九代藩主徳川斉昭（なりあき）が設計し、園内には百種三千本の梅が植えられています。梅を愛した斉昭は「梅は春のさきがけとして清らかな花を咲かせ、実は梅干にして軍用や飢饉の時の非常食となる」と、藩内に梅を植えることを奨励したのです。

雪の偕楽園を後にして次の目的地に向かって凍えながら歩いていると、徳川美術館わきに建つカフェサロンが突然目の前に飛び込んできました。皆大喜びでそこに入り暖かいランチを注文しアツアツのココアやコーヒーを飲んでしばし至福のときを過ごしました。

元気になった私たちは、千波湖周辺を散策し、めずらしい黒鳥をながめたり、見事な枝振りの桜並木の下を通ったりしました。街に出てからは、形良く剪定されている松並木や大きく育った銀杏並木を見学しました。

天気予報どおり、水戸駅を横断する頃には薄日が差しはじめ、最後の目的地の弘道館（こうどうかん）に着く頃には太陽が現れてきました。弘道館も斉昭の創設です。藩政改革に力を注いだ斉昭は、弘道館（優れた人材の育成を目的とする文武修行の場）と偕楽園（修行の余暇に心身を休める場）を一対の施設として構想したのです。

一日水戸の街を歩き、樹木の太さや大きさに街の歴史の長さを、そして建築物の大柄で簡素な様子に悠々とした大藩の風格を感じました。

牛久駅に戻った時には夜空に輝く月が優しく迎えてくれました。めまぐるしく変わる天気の中行われた研修見学会は、それゆえに忘れられない思い出となりました。

水戸･ケヤキの街路景観　　簡　10.2.18

公開里山セミナー報告

渡邊　浩美

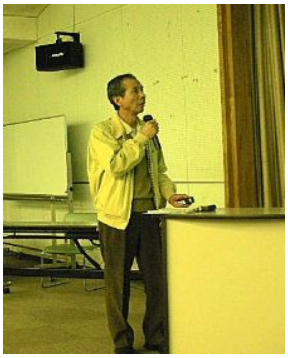
去る、三月十四日、エスカードホールにて、埼玉県より江戸時代から続く効率よく配置された里山である、三富新田に関わる二名の講師をお呼びして里山セミナーが開催されました。当日は、里山の会の会員の皆さんの口コミで、六十七名の参加がありました。

まず、講師の坂芳則氏（埼玉県川越農林振興センター所長）より「農地と里山の保全、その仕組み作り」について、スライドを交えて先進的な取り組みについてお話がありました。

次に、中田晃氏（さやま緑と里山の会元会長）より「さやま緑と里の会による平地林保全活動について、里山で農業を営む地権者として保全活動の写真を交えて、とても具体的なお話を聞くことができました。また、特定非営利活動法人うしく里山の会が茨城大学と連携して牛久自然観察の森で行っている事業「在来作物栽培プログラム」の事業報告もあり、参加者も交えての全体討論を行いました。

川越農林振興センター所長
坂　芳則氏

さやま緑と里の会元会長
中田　晃氏



雑木林応援隊
丸本　氏

牛久市農業政策課からは、牛久市での地産地消の取り組みの報告がありました。参加者の感想によると「里山の保全についてとてもわかりやすかった」と大変好評でした。当日は、里山の会が一丸となって盛況のうちに里山セミナーを開催できました。運営に関わった皆さま、お疲れまさでした。会員の皆さま、次回の里山セミナーについてのご要望を事務局までぜひおよせください。お待ちしています。

牛久自然観察の森だより

石神　良三

新エリア「たぬきの林」誕生

皆さん既にお気付きのことと思いますが、第一駐車場出入口に対面する、スギ・ヒノキ林が四月一日より、新しく観察エリアとしてご利用いただけることになりました。

タヌキの林

牛久市が十九年度予算で購入した約一ヘクタールのスギ・ヒノキ林です。コジュケイの林に隣接する森にとっては、生態系上とっても重要なエリアであり、感謝の念でいっぱいです。

二十年四月より間伐、低木等の伐採と観察用の園路の整備が進められ、見違えるほどの里山（スギ・ヒノキ人工林）が再生いたしました。

どんぐり広場

○「どんぐり広場」をつくりました。

園路を入ると右手に三十坪ほどの待ち合わせ場所をつくりました。これまで来園者の方々にはご不便をおかけしておりましたがこれで一安心です。

○「たぬきの林」と呼んでください。

牛久自然観察の森では、開園以来、各エリアごとの名称を動物名で呼称しておりますが、新しいエリアは「たぬきの林」といたします。

早春の木漏れ日の中を吹きぬける南風の心地よさを是非、全身で感じてみてください。

林床には、タチツボスミレ・アカネスミレの小群落も見られ、皆さんを歓迎しているかのようです。

丸太ベンチ

運営委員会・理事会からのお知らせ

坂　弘毅

一．牛久里山秋祭り

今年も開催が決定しました。

開催日　十月三十日（土）観察の森にて。

二．うしくフクロウ基金の件

来年度より、「うしく里山フクロウ寄付金」通称・フクロウ基金を設定し、多方面から寄付を募集することになりました。これは里山の会の使命を促進するため、会の財政基盤を安定化させ、運営強化のためを目的とします。寄付金額は一口五千円以上、上限なしとします。四月一日より実施します。

三．チェーンソーによる死亡災害が県内で発生しました。

複数で作業する場合、特に注意をしてください。また、連続作業による振動障害（レイノー現象）も報告されています。チェーンソーの安全教育を受けた方、もう一度安全教科書を確認ください。特に操作時間の規制（一連続作業時間は十分間、一日の延べ操作時間は二時間など）を厳守ください。

その作業！
ちょっと待て！

結束町みどりの保全区 エコアップ作戦

齊藤　孝

うしく里山の会全体事業「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」参加者募集のお知らせ

新年度のエコアップ作戦も第一金曜日と第三日曜日の二回実施いたします。会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしています。

四月の活動日時

四月二日（金）午前九時～十一時三〇分

十八日（日）午後一時～　三時三〇分

集合　ネイチャーセンター一階倉庫前

（予約不要／荒天時は中止→ホームページに情報掲載）

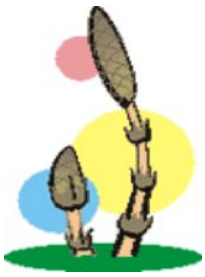
持ち物　長靴、軍手（長袖、長ズボンで）

※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

（問合せ先）

029-874-6600

担当：石神



牛久自然観察の森だより

齊藤　孝

年間来園者数、ついに六万人台に到達！

去る三月の三連休をもって、ついに平成二十一年度の総来園者数が六万人の大台を超えました。これはもちろん平成二年の開園以来の年間最多来園者数となります。

本会が牛久自然観察の森の指定管理者になるまでの年間最多来場者数は約三万八千人で、これは開園一年目の平成二年度のものでした。その後は年間平均で約三万人が続き、来園者数が初めて四万人を超えたのは、本会が指定管理者になって一年目の平成十八年度で、その後も順調に来園者数は増加を続けました。結果、平成十八年度から牛久自然観察の森は全国十カ所の自然観察の森の中で最も来園者の多い施設になりました。牛久市に比べて人口規模が約四十六倍ある横浜市では平成二十年度来園者数が約四万七千人、約十八倍ある福岡市では同二万人、約十三倍ある仙台市では同一万九千人であることを考慮すると、本会の事業成果の大きさが見えてきます。

※牛久自然観察の森の来園者数が大幅に増えた理由の一つとして考えられるのが、本会が指定管理者になってからの年間三百五十回という主催行事の多さです。約八千人が参加する主催行事においても、やはり全国で最多の実施回数となっています

今月の古木・希少木 No. 36 コブシ

高さ十五m以上になるモクレン科の落葉高木で、北海道から九州に自生します。葉は互生し、倒卵形ないし広倒卵形で、裏面は淡緑色で葉は全縁、かむと辛い味がします。三月下旬、葉の展開に先だち、香りのある白い花をつけます。満開になると木全体が白く見えます。花の下に小さな葉があるのが特徴です。花は写真のように花弁六枚で長さ六～十cmで、多数のオシベとメシベがあります。よく似たハクモクレンは三枚のがくが花弁そっくりのため九枚に見えます。

北国ではこの花を目印に農作業を始めるため、「田内桜」「芋植え花」などと呼ばれるそうです。花のあと、握りこぶしを思わせる七～十cmの集合果をつけます。熟すと裂けて赤い種が顔を出し、糸を引いて垂れ下ります。街路樹や公園樹として植えられ、材は家具や細工物などに利用されます。

市内でもあちこちで見られますが、牛久自然観察の森入り口近くの二本の古木は毎年たくさんの花をつけ、見応えがあります。ひたち野うしく駅西側住宅地には百数十本の街路樹の並木があり、これからの成長が楽しみです。

（四屋英子）

コブシの花　10.3.21

2010年 4月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	2 ○ｴｺｱｯﾌﾟ作戦 9:00NC	3 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受 8:20JR牛久駅 (研修見学会) ○親子農業体験講座 9:00NC(雨天10日)
4 ○巨木ﾘｻｰﾁ2(特 9:00中央生涯C	5 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	6 ○森の畑 9:30畑	7	8 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	9	10 ○里山自然観察隊 9:00得月院P (会報等原稿〆切)
11 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	12 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	13 ○森の畑 9:30畑	14	15 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	16	17 ○親子農業体験講座 9:00NC(雨天24日)
18 (春分の日) ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○ｴｺｱｯﾌﾟ作戦 13:00NC	19 (振替日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	20 ○森の畑 9:30畑	21	22 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	23	24 ○巨木ﾘｻｰﾁ2(特 8:30市役所玄関前 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受 13:00市ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱC (交流会)
25 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	26 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	27 (休園日)	28 ○森の畑 9:30畑 ○会報発送 13:00NC	29 (昭和の日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	30	

※活動日は天候等により変更となる場合がありますので，最新情報はホームページ（トップページのお知らせ欄）をご確認ください。

【凡例】

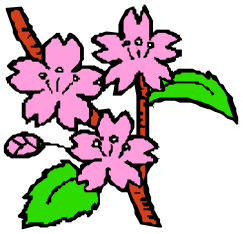
森：牛久自然観察の森
NC：牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P：牛久自然観察の森駐車場
炭小屋：牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑：牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ：牛久自然観察の森内コジュケイの林
観察舎畑：牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里）

市役所：牛久市役所本庁舎
ボランティアC：牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C：市中央生涯学習センター

アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園

(休園日)：観察の森休園日
(受)：受託事業
(特)：特別事業



編集後記

早くも四月、桜の開花情報も聞こえ始めました。この編集後記を書いていると毎回、早くも十二月、早くも正月、早くも三月と本当に月日の過ぎるのが早く感じます。それだけ自分も年を重ねているのですね。

私達が「牛久市観光アヤメ園」で作業をしていると、春の陽にうかれてかヒバリ（雲雀・告天子）の天高くさえずる声が聞こえました。また一方竹林からウグイス（鶯）のさえずり（ホーホケキョ・ちょっと未熟です）が聞こえます。私たちは一月を除き作業をしていますが、冬には藤棚や桜の木の枝先で、もず（百舌鳥）が鳴きます（この冬は牛久自然観察の森で（かなへび？）の「はやにえ」をみることができました）。除草をしていると池の中にはコサギが足で水中を震わせて小魚を捕っていました。また後ろからはハクセキレイが近くまできて餌を捕っています。先日はユリカモメが二羽近くの稲荷川を飛んでいました。こんなところまでくるのですね。そうかと思うとカワセミがすばやく飛んでいきます。また時々オオタカが高く気流にのっていました。カラスが追いかけるときがあります。これからはメダカ・カエル・ザリガニなどが姿を現し、水生動植物の豊富な環境になります。この紙面では皆様に、素晴しい環境をお見せすることができないのが残念ですが、是非遊びに来てほしいものです。

●ところで、この編集後記を多く書きますが、編集後記とはどんな目的なのか知ろうと思い、広辞苑やインターネットで調べてみました。（雑誌などの後に書く文章等の説明）で明解な説明はありませんでした。時々皆さんから「楽しく読んでいます」とお褒めのことばをいただき嬉しいのですが、最近目的を違って書いていないか気になるときがあります。しかし編集後記の解釈がはっきりしないということはこのまま続けて良いのですかね。

（佐藤　輝雄記）

広報委員会からのお知らせ

次号2010年4月号の発送は4月28日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。（尚、発送日･時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います）**よろしくお願いいたします。**